

ゾーニング

人と野生の生活圏の線引きです

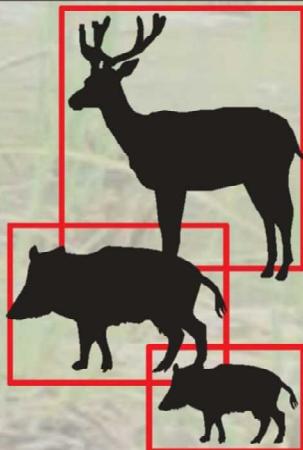
■ 効果的な運用

本ロボットをゾーニングの手段として、計画的に複数設置して移設しながら運用することにより、野生の生活圏を計画の範囲に囲い込む（制限する）ことで、自然の摂理に基づいたその範囲で得られる食料の中での生存、あるいは抑えた繁殖を可能とし、個体数の確保（保護）と鳥獣被害対策という相反した問題を一気に解決出来る可能性を有します。

運用イメージ

本システムは、言わば狩猟者が 24 時間態勢で、そこに立ち続けているのと同じ状況を作ることを目的にしています。現実には出来ないことを、ロボットの手を借りて実現します。

STEP1：カメラで害獣を自動検出



AI カメラで該当害獣のみを検出し、忌避行為を実行することが出来ます（外部制御が可能）
合わせて、検知・識別した時点で、その画像を添付したメール通知が出来ます（要インフラ）

STEP2：害獣を自動追尾し威嚇



検出した害獣に向けて、自動追尾する威嚇装置（忌避手段）を制御して追い払いを行います
先の実証実験で、従来相手に学習されることで効果が継続しなかった忌避手段であっても、その効果が継続していることが分かりました
追尾により、自分がターゲットにされていることを強く意識づけた結果だと考えられます



狩猟者を偽装することで、人の生活圏に野生が近づかないよう追い払います
ここでの問題は、忌避手段として何が採用できるか、です
野生に対して忌避効果が大きく、その効果の継続性が高いことはもちろん
色々な観点から安全対策が求められます（程度問題です）
ランニングコストを含め、費用の問題があります

忌避手段例		
電動ガン		射撃音と B B 弾で威嚇します。
レーザー		レーザー照射し、光で威嚇します。
ホーンスピーカー		【昼間用】 広い範囲に音を拡散させ威嚇します。
指向性スピーカー		【昼夜兼用】 対象害獣にのみ強い指向性の音で威嚇します。 夜間の騒音対策に有効です。

鳥獣害対策ロボット（特許取得済み）に関するお問い合わせは

SEIDENSHA 有限公司 青電舎 TEL 086-275-5000

〒703-8207 岡山市中区祇園433-6 Mail seiden@po.harenet.ne.jp